



今号の内容

- ・ 巻頭言”あれから15年”
- ・ プロジェクトニュース
**ミャンマー・サイクロン、バングラディシュ・サイクロン、
サモア・西スマトラ地震、アフガニスタン、イタリア中部地震、
ジャワ中部地震**
- ・ 1月のイベント紹介

あれから15年

あれからの15年が来てしまいました。この日が来ることなど思いもよらなかった。早くも、というのか、長かった、というのか、思いは区々です。大きなビルが建ち、パーキングが増え、新しい家の傍に、更地もまだあり、そこに風に乗ってきた種が芽を出し、名も知らぬ花を咲かせています。

この15年で何が変わったのか。確かなことは、50代であった私は間もなく70に手が届く年齢になったことです。CODEの当初からの理事や事務局のメンバーも白髪交じりになってきました。皆さまそれぞれの思いをお持ちのことと思います。

CODEとして変化を思い知らされたのは、昨年夏に当初からの理事の西 正興さんが亡くなられたことです。96年の「市民とNGOの国際『防災』フォーラム」で、当時神戸のケーキ業界のまとめ役をなさっておられた縁で、子どもたちのため、シェフたちを集め、神戸のケーキを振る舞って下さったことを、あの子どもたちの生き生きとした顔とともに、思い出します。また、秋には顧問の林 同春さんが逝かれました。集まりの折り毎に、「頑張ろう！頑張ろう！頑張ろう！」と乾杯の音頭をとられていたお姿が印象的でした。特に私どもは、雲南省地震の支援以来、励まされてきました。

変化の兆しは、しかし、私どもCODEにとって、若い人たちが育っていることでした。あの大地震を経

験した者のみならず、これを知らない若者たちもCODEを通して、育っていきました。CODEを支えてくれています。

地震の年に生まれた者がもう15歳なのです。小学6年生だった者はもう20代後半です。どこかで災害があると、とりあえず、被災地に駆けつけてくれる20代の若者は、当時、まだ小学校に入学したばかりか、幼稚園児でした。そんな若者がCODEとともに、働いてくれています。

私たちの前にある課題は変わらず山とあります。しかし、私たちが伝えてきたことは、そして、伝えたいことは、もっとも小さな者として、被災者に寄り添うことです。何ができなくとも、そばにいることはできる。黙って聴くことはできる。一人ひとりを大切に作る心です。私たちは繋がっている！と伝えることです。

2010年の年頭に当たりこんなことを考えています。

代表理事 芹田健太郎



[CODEプロジェクトニュース] 災害救援プロジェクト

ミャンマー（ビルマ）・サイクロン「ナルギス」救援プロジェクト

【2008年5月7日から】

「サイクロン「ナルギス」発生から1年経った今も飢えている人々が居る」-7月にミャンマーを再訪したCODE非常勤職員の上記報告により、復興から取り残されている被災地住民を救うため、津波以来現地で活動してきたローカルNGO「Metta Development Foundation（メッタ・ディベロップメント・ファウンデーション）」を通じて2村の住民3,244人に対し20日分の米の配給を行いました。対象の2村では、サイクロンのせいで少なくとも937人が命を落としました。急な呼びかけにも拘



わらず、2週間弱で同2村の被災者の危機を救うため、十分な寄付を集めることが出来ました。ご協力下さいました皆さん、ありがとうございました。

した。

支援した2村は、ミャンマー観光の際に飛行機が降り立つ第一の都市ヤンゴンの属するヤンゴン管区の隣りに位置するエヤワディー管区にあります。ヤンゴンの隣の管区でありながら、村への中継地までは整備の行き届いていない道を車で何時間もかけて行くか、運が良ければWFP（世界食糧計画）が運行している無料ヘリコプター行くしかありません。そしてそこからさらにボートに乗って移動していくことになります。日帰りなんて絶対に出来ませんが、立派なホテルなどはありません。サイクロン前までは陸路でなく海路からヤンゴンの海産物の買い付け人が来ており、2村の漁民達は彼らに海産物を売ることによって、米を購入していました。しかし、サイクロンによって釣り道具や船を失ってしまった漁民達の所へは、買い付け商人はやってこなくなりました。仕方がないから自分たちで米を作ろうと思っても、海水のせいで塩害にあった田畑からは前ほどの収穫が得られませんでした。

彼らのそんな窮状が、現地で学校再建や耐サイクロン保育センター建設などを実施していたメッタを通じ、CODEに伝わり、皆さまの善意の寄付金が現地に届けられ、メッタスタッフが献身的に村人や政府との調整や米の調達・輸送・配布を行うことにより、村人全員に20日分の米が行き渡らせることが出来ました。今後CODEは被災地の状況を見守っていききたいと思います。

なお約15万円ほどの残金を元に、メッタがもう1村

で米の配給を行う予定です。

バングラデシュサイクロン「シドル」救援

【2007年11月20日から】

孤児院の補修再建を行う予定でしたが、集まった義援金で新規建設を行うことが出来ました。この孤児院は2006年に設立され、維持管理はコミュニティの委員会が行っています。サイクロンで建物が大きな被害を受けた後、資金的に独自で再建することは不可能で、かつ各種支援からも取り残されてきました。CODEカウンターパートのバングラデシュ防災センターが、CODEとこの孤児院の出会いをきっかけに、やっと2009年7月16日に新しい建物を建設し始めることが出来ました。



この孤児院では約60人の男子が生活しています。今後はサイクロンがやってきても大丈夫な建物に安心して住める、ということで孤児もスタッフも喜んでいきます。

サモア津波・スマトラ西部地震救援プロジェクト

【2009年10月2日から】

サモア津波

9月29日現地時間6時48分にアメリカ領サモア沖で発生した海底地震による津波が、太平洋諸島のアメリカ領サモア及び西サモアを襲いました。全体での死者は150人を超えました。現在集まった義援金を元にどんな復興支援が出来るか検討中です。

スマトラ西部地震

9月30日現地時間17時16分にインドネシアのスマトラ島沖で地震が発生し、死者1000人以上、負傷者約2000人、家屋10万軒以上が倒壊という深刻な事態となりました。2006年ジャワ島中部地震救援でCODEのカウンターパートとなっているインドネシア人建築家のエコ・プラワットさん（ニュースレター35号に寄稿）と共に、復興計画を策定中です。

アフガニスタン救援プロジェクト

【2002年7月17日からの継続事業】

ぶどう新聞でも報告しておりますが、7月に実施された第3年次ぶどう研修から戻った研修生達は、習った技術を現地に活かしながら実践しています。自分たちが学んだことを他の農家達と共有できるよう、研修内容を伝える講義などが住民組織シューラを通じて積極的に行われています。シューラやぶどう農家協同組合の活動をモニタリングしながら、アフガニスタンのコミュニティの再生を今後も見守っていきます。

アフガニスタンから台風9号の豪雨被害を受けた佐用へお見舞いの手紙が届きました！

犠牲者も出た8月の兵庫県西部地域水害で被災した佐用町の人々に対し、「3年間のぶどう研修でお世話になったので励ましのメッセージを届けたい」と、ミールバチャコット県のシュエラを代表とし、アフガニスタンからお見舞いのメッセージが届きました。遠く離れていても災害被災者へのいたわり・思いやりの心が人と人をつなぎます。

イタリア中部大地震救援プロジェクト

【2009年4月6日から】

引き続き、スタッフ尾澤が現地派遣の際にお世話になったドクターハウスの団体と連絡を取り合っています。被災地ではテント村もほぼ撤去されました。また家屋の安全調査が11月に終わり、引き続き使用可と判定された半数近くの住居はそのまま使用されています。イタリア政府のハード面の支援は素早く、集合住宅の建築や新しいまちづくりが早速進んでいます。

しかしながら、約2万人の被災者が今だにホテル又は仮の家屋等に住んでいる状態です。さらに、これらの仮住まいもラクイラからほど遠い町に分散しています。町全体の復興にはまだまだ時間がかかりそうで、地域別に置かれたテント村に存在した、コミュニティや関係性が失われているところもあります。

ドクターハウスの活動もこのような状況に合わせて、特定の被災者層（高齢者や子ども）を対象にしたプログラムを考案中のようで、支援内容も次の段階に進んでいっているようです。孤独な被災者や隠れたダメージを少しでも減らせるように、現地と緊密に連絡を取りながら、ニーズにあった支援を検討中です。

中国・四川大地震救援プロジェクト

【2008年5月13日から継続】

CODEスタッフの派遣も9回目となりました。今年も厳しい冬です。コミュニティ再建の拠点ともなるセンターの再建に向け、奮闘中です。

ジャワ島中部地震救援プロジェクト（番外編）

【2006年5月27日からの継続事業】

<エコさん新潟同行記>

10月16日から18日、新潟・中越において「防災・安全・復興に関する国際シンポジウム」が開催されました。震災5周年事業のこのイベントには、国内外問わず、防災・復興の分野において活躍する多くの方が参加しました。その分科会のパネリストとして講演するため、エコ・プラワットさんがインドネシアから来日されました。呼び水プロジェクトの現地カウンターパートとしておなじみのエコさんです。9月末にはインドネシア

のパダン地域で大きな地震があったばかりで、呼び水プロジェクトの次段階の調整に加えて、パダン支援のための意見交換や情報収集が、シンポジウムの合間を縫って行われました。

16日朝、成田空港に笑顔で到着したエコさんは中越に直行し、オープニングイベントの講演を熱心に聴いていました。特に今回のシンポジウムの大きなテーマでもある、持続可能な地域づくりという分野のディスカッションから多くの学びを得たようです。17日には「被災地支援のあり方」というグループにおいて、パダン地域の被災状況を報告した後、伝統や慣習に基づいた支援が復興課程において重要であることを自身のプロジェクトを通して訴えました。おおげさな演出や押し付けるような態度は全くなく、研ぎ澄まされた言葉をひとつひとつ口に出していくスタイルが印象的でした。その後の全体円卓会議における分科会の成果発表の中で、グループコーディネーターの羽賀友信さん（長岡市国際交流センター長）が伝統という言葉を中心に、被災者支援の議論をまとめました。それを聞いたエコさんは、自身の思いが伝わったことを確認できて、安心したような様子でした。



大きな被害を受けたパリアマン地区

18日と19日は被災地を実際に見学する時間がとられました。山古志の復興状況や川口の被災者宅を回る中で、エコさんは、自国の村や地方の町が日本のそれらと同様の流れを踏んでいることに気づきました。つまり、若者は貨幣収入が見込める都会に行き、高齢者だけが地元に残る。世代を渡って続いてきた地域の文化や伝統が失われつつあるという現状です。だからこそ今回の訪問で、多様な復興やまちづくりを目にすることができたことは、エコさんにとっても有意義なことであったようです。

余談ですが、東京にてフリータイムが少しあったので、どこか行きたいところはあるか、と尋ねると、某大型雑貨店を指名しました。さまざまな工作道具や美術道具を2時間以上かけてじっくり見ていました。その後も、神社やアニメショップなど、時間をかけて多くの「日本」を吸収していました。被災地視察の時もそうでしたが、エコさんはモノゴトを見る視点が一味違います。同行した人の中でも明らかに視点が違うのです。多くを語らず、ただひたすら対象を多角的に見る努力を惜しまないのです。これまでの復興プロジェクトにおいて、エコさんはその地域にあるスタイルを大

変重視してきました。このようなすばらしいセンスは、エコさんの他者に対する真摯な向き合い方の積み重ねがあってできるものなのでしょう。

21日、無事に帰国の途につき、引き続きパダンの調整を行う旨のメールをもらいました。現在も今後の支援策について連絡を取り合っている状況です。

すばらしい経験の場を作って下さった中越のみなさん、本当にありがとうございました！

(記・尾澤良平)

2010年1月のイベント紹介

もうすぐ16年目の1.17がやって来ます。震災から15年ということもありイベントが目白押しですが、その中からいくつかご紹介します。

【災害メモリアルKOBÉ2010】

テーマ：今語る、15年の時間

日時：2010.1.9(土) 13:00～17:30

会場：人と防災未来センター

主催：災害メモリアルKOBÉ実行委員会

共催：人と防災未来センター、京都大学防災研究所、兵庫県

内容：

・作文発表「震災のお話を聞いて」

神戸市立春日野小学校、神戸市立長田中学校

・パネルディスカッション

「今語る、15年の時間」

コーディネータ：牧紀男(京都大学 准教授)

パネリスト：井上孝紀(震災当時 鷹取中学2年生)

古村光平(震災当時 鷹取中学2年生)

橋本信浩(神戸市立長田中学校 教諭)

向井 元(神戸百年記念病院 看護師)

山下美香(西市民病院 看護師)

「語り継ぎの今～災害メモリアルKOBÉのこれから～」

コーディネータ：矢守克也(京都大学教授)

パネリスト：小島 汀(ユース震災語り部)

諏訪清二(兵庫県立舞子高校 教諭)

船木伸江(神戸学院大学 講師)

牧 紀男(京都大学 准教授)

申込・連絡先：災害メモリアルKOBÉ実行委員会事務局

TEL:078-262-5068 <http://www.dri.ne.jp/>

【関西学院大学災害復興制度研究所5年フォーラム】

テーマ：阪神・淡路大震災がこの国に遺したもの

～人間復興の旗は立てられたのか～

日時：2010.1.9(土) 10:00～16:30

会場：神戸国際会館9階 大会場

主催：関西学院大学災害復興制度研究所

後援：朝日新聞社

内容：

・災害復興制度研究所の5年：

山中茂樹(災害復興制度研究所 主任研究員)

・特別講演：高村 薫(作家)

・震災15年の総括：室崎益輝(災害復興制度研究所所長)

・震災復興コンサート：飯田美奈子(オペラ歌手)

・インタビュー：

長島忠美(衆議院議員 災害ボランティア議員連盟 会長)

市村浩一郎(衆議院議員 同副会長)

・パネルディスカッション

コーディネータ：室崎益輝(災害復興制度研究所所長)

パネリスト：

魚住由紀(MBSラジオ「ネットワーク1.17」パーソナリティ)

貝原俊民(元兵庫県知事)

木村拓郎(日本災害復興学会 復興支援委員会委員長)

外岡秀俊(朝日新聞社編集委員)

申込・連絡先：関西学院大学災害復興制度研究所

FAX:0798-54-6997 <http://www.fukkou.net/>

* 翌日10日被災地交流集会を開催

宮城・栗駒、新潟、能登、鳥取・日野、三宅島、神戸など被災地からゲストを迎える。(会場：関西学院大学光の間、14:00～17:30)

【草地賢一さん召天10年記念会】

日時：2010.1.11(祝) 13:30～18:30

会場：兵庫県民会館9階 けんみんホール

内容：

・第1部 記念礼拝(13:30～14:20)

・第2部 パネルディスカッション「蒔かれた種は今」

コーディネーター：山口 徹(前神戸YMCA総主事)

パネリスト：

荒川純太郎(牧師・草地さん関学神学部同級生)

鈴木隆太(元被災地NGO協働センター・スタッフ)

草地大作(防府教会牧師、賢一氏 長男)

・第3部 記念座談会・食事会(17:15～18:30)

会場：兵庫県民会館10階 福の間

会費：5000円

問い合わせ：被災地NGO協働センター(TEL 078-574-0701)

【国際防災・人道支援フォーラム2010】

テーマ：兵庫行動枠組採択から5年～都市の減災に向けて～

日時：2010.1.14(木) 14:00～17:00

会場：ポートピアホテル トパーズの間

主催：国際防災・人道支援フォーラム実行委員会、

UN/ISDR兵庫事務所、人と防災未来センター、

ひょうご震災記念21世紀研究機構

内容：

・基調講演1「兵庫行動枠組採択から5年」

ヘレネ・モリン・バルデス

(国連国際防災戦略事務局次長)

・基調講演2「減災社会に向けた都市の課題」

河田恵昭(人と防災未来センター長)
・パネルディスカッション「災害に強い都市の構築」
コーディネーター：安藤尚一(UNCRD兵庫所長)
パネリスト：
アグネス・チャン(歌手、日本ユニセフ協会大使)
河田恵昭(人と防災未来センター長)
ショウ・ラジブ(京大大学院地球環境学学准教授)
長谷川彰一(内閣府官房審議官「防災担当」)
森 秀行(地球環境戦略研究機関副所長)
申込・問合せ：人と防災未来センター事務課
TEL：078-262-5068 FAX：078-262-5082
E-mail：dra.secretariat@gmail.com

【阪神・淡路大震災15周年フォーラム】

テーマ：つながる思い、世界のために
～防災・災害復興と国際協力～
日時：2010.1.16(土) 13:30～15:50
会場：神戸メリケンパークオリエンタルホテル「瑞天」
主催：神戸新聞社
内容：
・基調講演「輝いて生きる」
ジュディ・オング(歌手、ワールドビジョン親善大使)
・パネルディスカッション
コーディネーター：門野隆弘(神戸新聞社論説委員)
パネリスト：
芹田健太郎(神戸大学名誉教授、CODE代表理事)
伊禮英全(JICA兵庫 所長)
斉藤容子(UNCRD兵庫 研究員)
村田昌彦(兵庫県防災企画局防災計画 室長)
問い合わせ：神戸新聞社広告局業務推進部
TEL 078-362-7077

【1.17メモリアルコンサート】

テーマ：詩の朗読と音楽の夕べ
日時：2009.1.17(日) 開場18:00 開演18:30
会場：神戸新聞社松方ホール
主催：ぼたんの会実行委員会
復興支援コンサート実行委員会
協力：神戸新聞文化財団
料金：前売り¥2,500、当日¥3,000
内容：詩の朗読 竹下景子
演奏 板橋文夫ミックスダイナマイトリオ
申込み：神戸新聞松方ホール tel：078-362-7191
しみん基金こうべ tel：078-230-9774
ギャラリー島田 tel：078-262-8058 など

【国際防災シンポジウム2010/APEC防災CEOフォーラム】

テーマ：都市の安全と気候リスク
～持続可能な発展にむけて～
日時：2010.1.18(月) 13:00～17:30
会場：よみうり神戸ホール

主催：外務省、アジア太平洋経済協力、国際連合地域
開発センター、読売新聞大阪本社、国際防災シ
ンポジウム実行委員会
内容：
・基調講演「洪水と共に生きる」
尾田栄章(国連水と衛生に関する諮問委員会 委員)
・APEC各国の報告
ペルー：ルイス・フェリペ・パロミノ
(ペルー国家防災庁長官)
米国：ティモシー・マニング(FEMA副長官)
ロシア：プチコフ・ウラジミール・アンドレエヴィチ
(ロシア民間防衛・非常事態・災害復旧省次官)
中国：中国代表民生部(予定)
日本：守茂昭(都市防災研究所 事務局長)
・パネルディスカッション「都市の安全と気候リスク管理」
ファシリテーター：ジェリー・ベラスケス(未定)
(国連国際防災戦略アジア太平洋事務局長)
パネリスト：タブラニ
(インドネシア防災庁諮問委員会議長)
アントニー・ピアース
(オーストラリア災害管理庁 長官)
クリエングクライ・コヴァダナ
(タイ国立災害警報センター専門家)
斉藤容子(UNCRD兵庫 研究員)
申込・連絡先：UNCRD兵庫事務所
TEL:078-262-5560
<http://www.hyogo.uncrd.or.jp>

【阪神・淡路大震災15周年フォーラム】

テーマ：地震災害軽減に向けた学協会からの発信・社会
との連携
日時：2010.1.18(月) 13:00～17:30
会場：神戸国際会議場メインホール
共催：日本学会会議、地盤工学会、震災予防協会、地
域安全学会、土木学会、日本機械学会、日本建
築学会、日本建築構造技術者協会、日本災害情
報学会、日本災害復興学会、日本自然災害学会、
日本地震学会、日本地震工学会、日本都市計画
学会
内容：
・基調講演1：土岐憲三(立命館大学)
・基調講演2：濱田政則(早稲田大学)
・パネルディスカッション
「地震災害軽減に向けての学協会の役割と地域社会と
の連携
～この15年で何が変わり今後どうすべきか～」
司会：翠川三郎(東京工業大学)
副司会：大西一嘉(神戸大学)
パネリスト：
武村雅之(鹿島小堀研究室)

梶原浩一（防災科学技術研究所）
越山健治（人と防災未来センター）
目黒公郎（東京大学生産技術研究所）
石崎勝伸（神戸新聞社社会部）
桜井誠一（神戸市保健福祉局）
森崎輝行（いきいき下町推進協議会）
黒田裕子（阪神高齢者・障害者支援ネットワーク）

連絡先：日本地震工学会・事務局

TEL 03-5730-2831 FAX 03-5730-2830

活動記録 09/7/16～09/12/31

7月6日～8月30日 四川地震第7次派遣（吉椿）
7月21日 福田信介さん(CODEボランティアスタッフ)死去
7月21日 神戸学院大学 防災・社会貢献ユニット講義（村井理事）
7月25日 神戸学院大学 防災・社会貢献ユニット講義（村井理事）
7月29日 西正興さん（CODE理事）死去
8月5日 アフガン農業研修報告会（尾澤、小川）
<8月9日 兵庫県・佐用町で水害発生、アフガニスタン農業研修でお世話になっている佐用町へボランティアを派遣>
9月3日 関西NGO協議会理事会に出席（村井理事）
9月25日 アフガニスタン・ぶどうプロジェクト報告（憲法を生かす会垂水、村井理事）
9月26日～10月30日 四川地震第8次派遣（吉椿）
<9月29日 サモア諸島周辺で地震発生>
<9月30日 インドネシア・スマトラ島沖で地震発生>
10月1日 サモア地震・スマトラ西部地震支援活動開始
10月13日 舞子高校で講演（村井理事）
10月17、18日 中越地震5年フォーラムで四川、アフガン報告（吉椿、尾澤）
10月19日 関西NGO協議会理事会に出席（村井理事）
11月2日 兵庫教区クリスチャンセンターで四川報告（吉椿）
11月3日 四川地震報告会in名古屋（吉椿）
11月4日 神戸大学都市安全センター主催JICA研修で講義（村井理事）
11月6日～12月28日（予定）四川地震第9次派遣（吉椿）
11月10日 日本・中国アジア経済戦略フォーラムで講義（村井理事）
11月18日 龍谷大学で講義（村井理事）
11月19日 林同春さん（CODE顧問）死去
11月28日 UNCRD兵庫10年記念シンポジウムでアフガニスタン事例報告（村井理事）
関西NGO協議会理事会に出席（村井理事）
12月4日 関西学院大学で講義（村井理事）
12月5、6日 被災地交流国際シンポジウムin石川で四川報告（吉椿）
12月9日 行政刷新会議の事業仕分けで統合が求められたJICA兵庫の存続についての要望書をJICA、外務省、民主党県連に提出。記者会見も行う（芹田代表が世話人代表）

12月12日 神戸松蔭女子学院大学主催シンポジウム「阪神・淡路大震災とまちづくり」で講演（村井理事）

12月18日 CODE理事会

ありがとうございます 09/7/16～09/12/31

会員・寄付者ご芳名（以下順不同・敬称略）

一般寄付（災害救援は除く）

個人：石崎彩子、赤田義久、笠置りか、奥野高久、今中由美子、井上雅楽緑、倉賀野学、山本佳子、島本久嗣、武内和子、成毛典子、坪谷令子、小林孝信、鶴飼愛子、渡辺千恵、高橋智子、石川玲子、松江直子、庄司俊恵、本城弘文、篠田耕昌、安部美鈴、尾澤良平、越智由美子、藤田正、安藤尚一、大石恵理子、斉藤容子、今井鎮雄、戎綾子

会員

・正会員

個人：橋口博文、藤野一夫、鶴飼卓

・賛助会員

個人：市丸紅一、池見宏子、安藤尚一、田中淳子、島田誠、林大造、和田幹司、北茂紀、鶴飼愛子、高橋智子、亘佐和子、徳永加恵、不破雅美、菊田歌雄、栗原謙治、木下洋子、渡辺町子、鈴木有、野下之男、目黒和子、栗山隆生、平林典子、亀井加寿子、琴浦圭子、庄司俊恵、岡本千明、梶谷由美子、中山巖、小磯恵利、桐島道衛、大谷成章、広川嘉宏、田丸暢子、山本治子、田中隆、服部正、藤原幸子、清水正博

NPO団体：神戸公務員ボランティア

おわりに

阪神・淡路大震災が発生してから、もうすぐ15年となります。15年も経つと、もちろん震災を知らない世代が出てくるわけです。最近ある大学で開催された集まりに参加しました。テーマは、震災を知らない世代がどのようにそれと向き合っていくか。震災の影響を、発生当時だけでなく、その後の成長過程で受けてきた学生や社会人たち。彼らが表現することの中に、多くの興味深い点がありました。

もし気になったら、帰省中のお孫さんや町内会の子ども、1人暮らしをする大学生の娘、すでに結婚して家を出た息子、等に聞いて見て下さい。震災とは何か、震災に向けて何ができるかを。世代交代までは行かなくとも、世代間交流があれば十分だと思います。なかなかの答えが返ってきますよ。当の私も知らない世代です。

最後になりましたが、本年もどうぞよろしくお願い致します。(R.O.)

